

メンテナンス

日常の手入れ

使用頻度の高い部屋は毎日、少ない場合でも週に2回は掃除機がけが必要です。粗ゴミを取り、汚れなどを点検しながら掃除機で埃を吸い取ります。掃除機はパイルの毛並みを起こす方向にかけると、効果があります。パイル糸が飛び出しているときには、引き抜いたりせずにハサミで丁寧に切り揃えてください。

■ダニの発生を防ぐには

ダニはあらゆる場所に生息しますが、吸引力の大きい掃除機で週に2回は掃除することや、部屋の窓を開けて風通しを良くすることなど、日頃の手入れと気配りで繁殖を防ぐことができます。また夏季の大掃除は効果的です。パワーブラシ付掃除機をご使用の場合、パイルの素材や形状によってはパイルを傷める事がありますのでご注意ください。

■シミ・汚れの手入れ

汚れが付着した場合、汚れが広がらないように注意しながら即座に拭き取ってください。時間が経過するほど除去しにくくなります。シミの取り方は右表をご参照ください。

■くぼみの手入れ

パイル部に机の置き跡などが生じたときには、スチームアイロンの蒸気(温度に注意)か、ぬるま湯を湿らせた布でパイルを起こし、毛並みにそってブラッシングしてください。

■遊び毛について

ウールやアクリルに代表される紡績糸使いのカーペットは遊び毛が出ます。遊び毛は、新しいカーペットのパイルに含まれる余分な毛が出てくる現象であり、毛抜けではありません。日常のメンテナンスにおいて(特にカットパイルの商品)、回転ブラシ付き掃除機の使用は、パイル部分の抜けが多くなるため、ご使用はお控えください。

定期的な手入れ

カーペットには、日常の掃除だけでは取りきれない汚れなどが徐々にたまるため、次のような定期的な手入れを行ってください。

■埃の吹き出し(置き敷きのラグやカーペット)

天気の良い乾燥した日を選び、半日ほど日陰干ししたあと、軽く棒などでパイルの奥に入り込んだ埃を吹き出してください。再び敷くときには、今までの方向とは向きを変え、パイルの部分消耗を平均化させてください。また床に凸凹があると、その部分のパイルが早く消耗してしまうため、床は平らにしてください。

■定期的な拭き掃除

カーペットの全体汚れは、汚れに応じた洗剤を使用してください。その後は洗剤が残らないように水拭きし、さらに乾いたタオルでから拭きの仕上げを行ってください。掃除は汚れ具合をみながら半年に1回程度、汚れが気になるときは直ぐに行ってください。

■カーペットのクリーニング

専門業者によるカーペットクリーニングには、パウダー方式によるものや、その他いろいろな方式があります。家庭では、市販されているカーペットシャンプーで行う方法があります。しかし、ひどい汚れやシミなどの場合は専門業者に依頼することをお薦めします。クリーニング後の洗剤除去が不十分な場合に、残留洗剤による再汚染が発生して、かえって汚れが目立つことがありますのでご注意ください。

[クリーニング工法のご紹介]

	スチーム工法	ロータリーシャンプー法	エクストラクション法	ドライフォームシャンプー法	パウダー法	ヤーンパッド法
概要	高温圧スチームと強力バキュームを特徴とし、スチームによりパイルに付着している汚れを分解させ、同時に汚れをバキュームします。高温による洗浄効果は想像以上に大きく、ロータリーシャンプー法と同等です。洗浄機を往復させるだけの単純作業で部屋の角や机の下などもきめ細かい洗浄ができます。機械は連続自動給排水方法です。	ポリッシャーの物理的な力と洗剤の作用によって汚れをパイルから遊離させるウェットタイプの方法です。現在最も多く利用されている技法です。通常のシャンプーの後リンスでエクストラクション作業を行います。	専用の機械を使って水や洗剤をポンプ圧力でジェットスプレーし、カーペットの汚れをブラシでこすりながら、同時に汚れ回収する方法です。	機械の中で発泡させた洗剤をカーペット表面に送り出し、強力なパイルブラシでカーペットの汚れを包み込みながら除去する方法です。別名「ローラーブラシ法」とも呼ばれ、クリーニング後は粉末となった洗剤と汚れをバキュームするだけでOKです。	木粉や合成樹脂粉に洗剤をしみ込ませたパウダークリーナーをカーペットに散布し、専用の機械でブラッシングして、汚れをパウダーに吸着させる方法です。ブラッシング後はカーペット上に残ったパウダーをバキュームするだけでOKです。	カーペットの汚れを綿や合成樹脂のパッドに吸着させる方法です。あらかじめ洗剤をカーペットに散布してクリーニングする場合と、洗剤を直接パッドに湿らせてクリーニングする場合があります。
作業工程	1.バキューム作業 2.前処理剤の散布 3.ウオンドによる高温高圧噴射、 同時バキューム同時作業	1.バキューム作業 2.前処理剤の散布 3.ポリッシャーによるシャンプー 4.すすぎ洗い 5.乾燥	1.バキューム作業 2.前処理剤の散布 3.エクストラクション 4.乾燥	1.バキューム作業 2.前処理剤の散布 3.ドライフォーム 4.乾燥 5.バキューム作業	1.バキューム作業 2.前処理剤の散布 3.パウダー散布 4.ブラッシング 5.バキューム作業	1.バキューム作業 2.前処理剤の散布 3.パフィンパッド 4.乾燥 5.バキューム作業
効果	洗浄性・・・・・・・・・・・・・5 簡便性・・・・・・・・・・・・・4 乾燥性・・・・・・・・・・・・・4 再汚染防止効果・・・・・・・・4 パイル損耗度・・・・・・・・・・5 衛生効果・・・・・・・・・・・・・5 洗剤残留性・・・・・・・・・・・・・5	洗浄性・・・・・・・・・・・・・5 簡便性・・・・・・・・・・・・・1 乾燥性・・・・・・・・・・・・・1 再汚染防止効果・・・・・・・・2 パイル損耗度・・・・・・・・・・1 衛生効果・・・・・・・・・・・・・1 洗剤残留性・・・・・・・・・・・・・1	洗浄性・・・・・・・・・・・・・4 簡便性・・・・・・・・・・・・・3 乾燥性・・・・・・・・・・・・・2 再汚染防止効果・・・・・・・・4 パイル損耗度・・・・・・・・・・5 衛生効果・・・・・・・・・・・・・5 洗剤残留性・・・・・・・・・・・・・3	洗浄性・・・・・・・・・・・・・3 簡便性・・・・・・・・・・・・・5 乾燥性・・・・・・・・・・・・・4 再汚染防止効果・・・・・・・・3 パイル損耗度・・・・・・・・・・3 衛生効果・・・・・・・・・・・・・1 洗剤残留性・・・・・・・・・・・・・2	洗浄性・・・・・・・・・・・・・2 簡便性・・・・・・・・・・・・・5 乾燥性・・・・・・・・・・・・・5 再汚染防止効果・・・・・・・・3 パイル損耗度・・・・・・・・・・3 衛生効果・・・・・・・・・・・・・1 洗剤残留性・・・・・・・・・・・・・2	洗浄性・・・・・・・・・・・・・1 簡便性・・・・・・・・・・・・・4 乾燥性・・・・・・・・・・・・・5 再汚染防止効果・・・・・・・・2 パイル損耗度・・・・・・・・・・3 衛生効果・・・・・・・・・・・・・2 洗剤残留性・・・・・・・・・・・・・3
メリット	1.洗浄力に優れている。 2.余熱効果と強力バキュームで乾燥が早い。 3.作業工程が単純。 4.連続給排水方式なので作業中断の必要がない。 5.作業工程が単純。	1.洗浄力に優れ、汚れの激しい場所が最も適している。	1.汚れも一瞬のうちに回収することが出来る。 2.カーペットのパイルを傷める危険性が少ない。 3.作業工程が単純。	1.作業が簡単で特別な技術を必要としない。 2.軽度な汚れに適している。	1.水を使わないので乾燥が早い。 2.作業中でも歩行が出来る。	1.表面に付着した軽度な汚れに適している。 2.水を使わないので乾燥が早い。
デメリット	1.トラックマウント型は価格が高い。 2.作業時に駐車場が必要。	1.水を多く使用するため乾燥に時間がかかる。 2.労力と時間を要す。 3.ブラシの回転によってパイルを傷めやすい。	1.水を多量に使用するためカーペットを濡らしすぎる危険性がある。 2.乾燥に時間がかかる。	1.前進運動であるため作業箇所が限定。 2.強力な洗浄力はない。	1.洗浄力が劣る。 2.ブラッシング後のバキューム作業を怠ると、パウダーが拡散して反対に汚れやすくなる。	1.洗浄力が劣る。 2.パッドに汚れを吸着させるため、パッドの交換を頻繁に行わなければならない。

※タフテッドカーペットの場合、パイルの接着にラテックスを使用していますが、このラテックスは各種の有機溶剤に溶かされやすい性質があります。したがって有機溶剤を使用するドライクリーニングでタフテッドカーペットをクリーニングすると、接着剤が溶出する危険やパイルの固定がゆるんでカーペットの形状に影響を及ぼすことがあります。

シミの取り方

食品品のシミの取り方	
シミの原因	処理方法
チョコレート	ホウ酸粉末をふりかけ、冷水を注いで15分経ってから濡れた布で拭き取ります。残った粉末は乾いてから掃除機で吸い取ってください。
アメ・ジャム・キャンデー・砂糖	熱い湯に中性洗剤を溶かし、布で拭き取ります。跡が残るようならベンジンで軽く拭いてください。
チューインガム	丸めながらつまみ取り、残った部分をアルコールかベンジンで拭き取ります。どうしても取れない場合は、ドライアイスで固めてから、叩いて粉々にします。
玉子	冷水(温湯を使わないこと)で拭き取ります。
牛乳・乳製品	温湯で拭き取り、跡が残るようならベンジンで軽く拭いてください。
コーラ・サイダー	アンモニア水かホウ酸水で拭き、中性洗剤を入れたぬるま湯で拭き上げます。
油性のシミの取り方	
シミの原因	処理方法
食用油・バター・ラード・口紅・靴ずみ・朱肉など	ヘラかナイフで汚れを取った後、ベンジンを白布につけてつまむように取ります。その後、中性洗剤を入れたぬるま湯で拭きます。吸取紙を当ててアイロンをかけても構いません。無地のものは、輪ジミを残さないよう、霧吹きをしておきます。
油絵具・ペンキ	テレピン油で柔らかくし、吸取紙を当ててアイロンをかけた油分を拭き取ります。さらにアルコールで拭いてから中性洗剤を入れたぬるま湯で仕上げます。
マニキュア・マジックインキ	シンナーで拭き、中性洗剤を入れたぬるま湯で拭き上げます。
水溶性のシミの取り方	
シミの原因	処理方法
しょうゆ・ソース	吸取紙で吸い取り、中性洗剤を入れたぬるま湯で拭きます。
コーヒー・紅茶	こぼした場所へぬるま湯を注ぎ、吸取紙やタオルで吸い取ります。時間の経ったものは、アストリンゼントを含ませた布で拭くと効果的です。
茶	水で拭いた後、アルコールで拭き上げます。
ビール・酒・洋酒	タオルなどで吸い取り、スポンジに水を含ませて拭きます。
カクテル	水で拭き取ります。ただし、果汁が含まれているとなかなか取れないので、専門家に依頼します。
その他のシミの取り方	
シミの原因	処理方法
インキ・墨汁	吸取紙と食塩とで吸い取ったあと、中性洗剤を入れたぬるま湯で拭きます。牛乳をふりかけて拭き取っても構いません。
血	塩水(1ℓの冷水に塩をカップ半分)で拭き、ぬるま湯で拭き上げます。
ヨードチンキ	中性洗剤、またはアンモニア水で拭き取り、水で仕上げます。
尿	塩水またはホウ酸水、アルコールと酢酸の混合液のいずれかで拭きます。その後、中性洗剤を入れた水で拭き上げます。
犬猫のふん	塩水で拭き取ってから、5%アンモニア水で拭き、中性洗剤を入れたぬるま湯で仕上げます。

※カーペットの色が落ちないかどうか、目立たない所で確かめてから実施してください。

※本表に示すのは、シミ・汚れの取り方の1つの方法です。カーペットのシミ・汚れには複合したものがあり、カーペット自体に使用される繊維にもいろいろな種類があります。そのため、すべてに完全とはいえない点がありますのでご注意ください。